発行責任者：増田望三郎　安曇野市三郷小倉 4028-1 安曇野地球宿内　TEL/FAX 0263-55-7414　メール boetu@d6.dion.ne.jp

安曇野レインボウ通信

2020年 春号 第25号

増田望三郎（ぼうざぶろう）の市議活動だより

みなさん、こんにちは。安曇野市議会議員の増田望三郎です。安曇野市政が市民にとって身近になるために、虹（= Rainbow レインボウ）の架け橋となるよう活動報告をお届けします。望三郎の活動はブログやフェイスブックでもどうぞ 。→「増田望三郎」で検索。

●プロフィール
大分県出身 51 歳。東京経由で安曇野に移住し 17 年目に。三郷小倉に妻と子供と妻の両親の３世代で暮らす。自給の農業をしながら、出会いと体験の宿『安曇野地球宿（ちきゅうやど)』を経営。安曇野市議、現在２期目。好きな言葉は『出会い、共感、展開』

巻頭言

新年度予算の概要

３月定例会の主要議題は令和２年度予算案でした。市がこの１年、どれだけお金を手に入れて、何にいくらお金を使うのか。それが示されているのが予算案です。**我々議員は、その予算により、子育ては、教育は、福祉は、仕事は、環境は、どう良くなってくのか議論しました。**議会が予算案を議決・承認する過程を経て、４月から予算が執行されます。

令和２年度予算案の総額は約 422 億円。昨年度より約 10 億円増の７年連続 400 億円越えの大型予算です。約 422 億円使う（歳出）ということは、それに見合う財源（歳入）があるということ。ではこの 422 億円はどこから集められてくるのでしょうか。

●歳入　※（　）の％は全体額に対する割合

・市税　約 117 億（27.8％）。市への税金

・国からの交付税　約 103 億円（24.3％）。
国への税金を地方に分配。

・国や県の支出金　約 68 億（16.1％）。
使途が特定。

・市債　約 61 億（14.5％）　市の借金

・繰入金　約 20 億円（4.7％）
基金（＝家庭で言えば貯蓄）の取り崩し。

・その他　約 53 億円（12.6％）
国に頼らない市独自のお金（自主財源）である市税は全体額の３割弱です。これではやっていけないので、国や県からお金を配分される分が約４割。さらに市債を発行した借金や基金の取り崩しで確保します。これが安曇野市のお金の入り方です。

では次にこのお金を何に使うのか。（＝歳出）

●歳出

建設や土木等のハード事業

・新総合体育館建設　約 14 億円
総事業費 38 億円です。2021 年 10 月の完成予定で今年度は本体工事に着手。

・新ごみ焼却施設整備　約 28 億 1600 万円
市の一般家庭ごみがここで焼却されます。2021 年３月より利用開始。

・万水川下流域の内水対策　約 2300 万円。

少し身近なところでは、

・JR 有明＆追分駅の駐輪場に屋根設置で 1470 万円。市民の陳情を採択した結果､実現。

次にソフト事業。（千円未満は切り捨て）

・自然保育関連
自然保育推進を行う地域おこし協力隊２名の人件費 482 万円。**協力隊員、大募集です。**

・豊科公民館ピアノリレーマラソン　０円
ピアノ愛好家によるリレーで演奏をつなぐユニークなイベント。ゼロ予算と言ってお金をかけずに行います。

・日本語学習支援事業
日本語支援が必要な児童生徒に支援員を配置。ボランティアによる安曇野コミュニティースクール事業（ACS）から、新たに学校支援員事業の位置づけに。

・ふるさと寄附を使い、小学校に電子黒板の導入　6258 万円

・**注目は空き家対策事業**　1186 万円
新年度より空き家対策室ができ、空き家の監理・取り壊しから利活用までを行い、家の片付けやリフォームなどに補助金ができます。

●私は新年度予算案に賛成しました。予算案には自分が取り組んでいる課題が予算措置され嬉しいものもあれば、なかなか進まないものもあります。新年度本体工事が始まる総合体育館建設 38 億円のしわ寄せからか、新規事業も目を引くものが少なく、市も苦しい財政運営をしていると感じた予算案でした。

市民まちづくりトーク中止のご案内

毎定例会ごとに行なっていた市民まちづくりトークを新型コロナウイルスの影響により、**今回は中止します**。次回６月定例会後には開催できるように事態の収束を祈っています。

サポーターからの応援メッセージその 24　東本優子さん（三郷・りんご農家）

望三郎さんとは、子供が通う保育園の保護者として知り合いました。はつらつとした声と柔らかな笑顔で話す望三郎さんは、人との距離を縮めるのがとても上手な方との印象を受けました。議員になられてからも、その開かれた雰囲気はそのまま。いつでも気さくに「どう最近は？」なんて声をかけてくれ､「そうなんだねぇ」と肯定的に受けとめてくれるので、とても話しやすいのです。

そんなたわいもない世間話の中から、地域の困りごとや子供の育つ環境については、よりよい方法があるのではないか？ととらえ、深く考えていらっしゃったのでしょう。今回の議会でも質問テーマの一つとして取り上げられました。質問までの数か月の間に、関係機関と丁寧な対話を重ね、議会では平易な言葉で問いかけていらっしゃいました。その姿は、たゆまない努力と誠実さを強く感じさせるものでした。

人と人、夢と夢をつなぐ、数々の魅力あるイベントや集まりを作り出してきた望三郎さん。その豊富なアイデアと実行力で、安曇野市に何かが起こる！と期待しています。これからの益々のご活躍を祈念します。

３月定例会の一般質問

《質問１》明科北認定こども園をやまほいく特化型にする意義は

【解説】

安曇野市の子ども園は、全て県の自然保育認定制度（通称やまほいく）の普及型認定を受けており、幼年期の育ちにおいて自然保育を行うのが本市の方針です。今年度市は明科北認定こども園をやまほいくの特化型へ移行し、自然保育をさらに推進しようとしています。

これは市の保育行政が保育の質という点、また保育の多様なあり方を進めるという広がりの点で、新たなステージに向けたチャレンジをすることを意味します。望三郎は幼年期から続く小学校年代においても、体験や実学などの学びの一貫性を持たせる必要を訴えました。

望市議　既に自然保育を行っている本市がもう一歩踏み込んで、公立園を自然保育の特化型にするのはなぜか。

市長　自然保育をリードし、シンボルとなる園を、民間の力を活用しながら官民共同でつくっていく。明科北こども園の活性化、ひいては安曇野市全体の活性化につなげる。移住・定住の促進を図り、保育人材を呼び込んで、幼児期の教育、保育の質の向上に努める。

望市議　幼から小への連携、一貫性が大事だ。自然保育を推進する市長の学校への期待は。

市長　自然保育はどのような形態で行われ、子供たちがどのように育っているのか。子供の性格や生活環境の情報共有が非常に大切。安曇野市の子供をたくましい子供に育てていくには、幼児期から義務教育まで一貫した方針が必要。

《質問２》不登校支援のあり方について

【解説】

不登校支援はこれまでも国、県、市町村で取り組んできましたが、その数は減じていません。それに伴い支援の考え方も、「不登校は問題行動ではない」「不登校は環境により誰にでも起こりうる」というように変わってきています。昨年10月の文科省が出した不登校支援のあり方に関する最新通知で、「学校復帰」の文言が一部削除されたことを受け、不登校支援のあり方と支援策の一つである民間教育施設の充実について議論しました。

新しい教育の創造
～ひかりの学校の保護者の皆さんとの懇談会～

望市議　文科省通知から「学校復帰」の文言がなぜ削除されたのか。

教育長　全国的に様々な不登校支援をしているが、その数が減少せず、高い数値を示している。学校に登校するという結果のみを目標にせず、児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立することを目指す点に方向転換している。

望市議　「学校復帰」の文言削除の意義は。

教育長　学校ではなく、フリースクール等民間施設を選択されるケースがあることと文科省通知を受け、子どもの社会的自立を目標とした取組を本市でも検討する時が来ている。

望市議　社会的自立に向けての教育機関として、民間教育施設がある。今後果たすべき役割をどう考えるか。

教育長　保護者や子ども自身が施設を選択しており、願いに応じた受け皿の役割を担っている。義務教育段階で身につけることが学べるように、また適性に応じた進路を切り開き、社会に出て真の自立を実現することを見据えた魅力ある施設をつくっていただきたい。

望市議　市教委として民間施設への支援を今後どう取り組んでいくか。

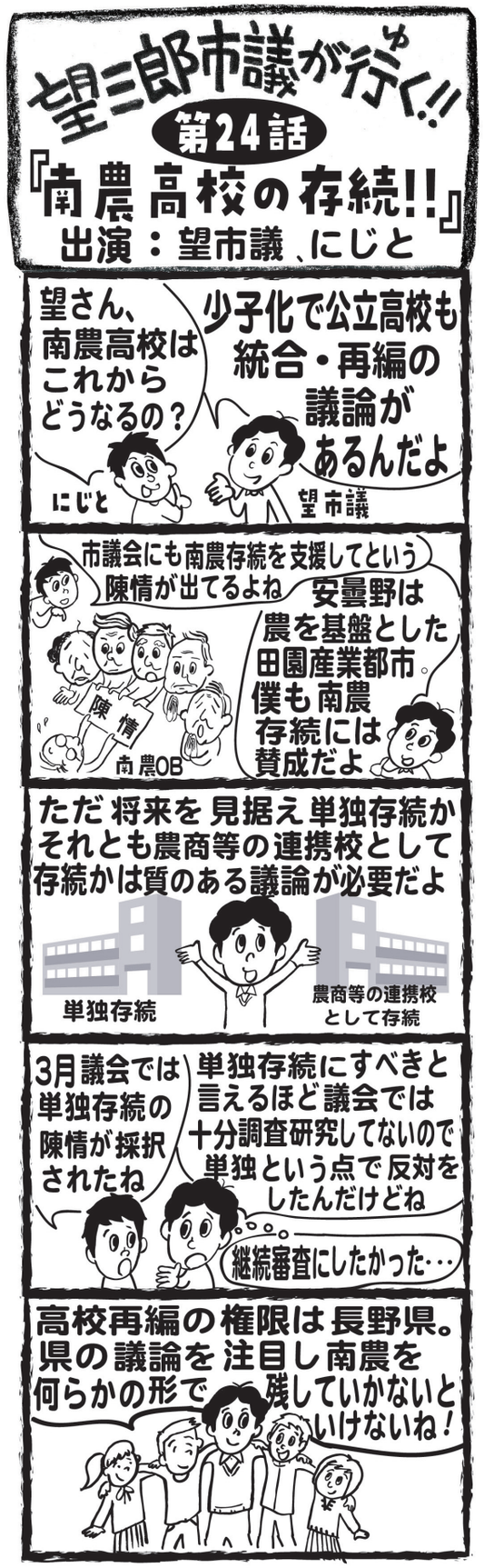
教育長　学校と施設が子どもを真ん中に置き、情報共有の場を持つことの検討を始める。

望市議　幼児期における自然保育の小学校への接続が大事では。

教育長　豊かな自然の中で特色ある幼児教育が進められている。それをこれまで以上に小・中学校へも繋げる積極的な取組をしたい。

【まとめ】

今回の文科省通知は、不登校支援の目的は学校復帰という目前の結果ではなく、中長期の視点を持って子供が社会的自立をすることだと言っています。子供によっては、社会的自立を果たすために、今過ごす場所は学校でなくてよい、学校以外の居場所を用意し、不登校支援の選択肢を用意する。ひいては、多様で適切な教育環境を整備する。これが今回の文科省通知が投げかける大きな意義であり、我々大人が向き合う教育課題なのです。



マンガ・イラスト／にじ工房 西絢子